

部 局	神戸大学大学院人文学研究科
所 属 講 座	文学講座
職 名	教授
氏 名	いしやま ゆうじ 石山 裕慈
学 位	博士（文学）（2009年3月）

（学 歴）

1997年 3月 京都府立乙訓高等学校全日制普通科卒業

1998年 4月 東京大学教養学部文科二類入学

2002年 3月 東京大学文学部言語文化学科日本語日本文学専修課程（国語学）卒業

2002年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科

日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野修士課程入学

2004年 3月 東京大学大学院人文社会系研究科

日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野修士課程修了

2004年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科

日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程進学

2009年 3月 東京大学大学院人文社会系研究科

日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程修了

（職 歴）

2006年 4月 日本学術振興会特別研究員DC2（2008年3月まで）

2008年 4月 東京工学院専門学校非常勤講師（2009年3月まで）

2009年 4月 弘前大学教育学部講師（2012年3月まで）

2012年 4月 弘前大学教育学部准教授（2013年3月まで）

2013年 4月 神戸大学大学院人文学研究科准教授（2025年9月まで）

2014年 4月 武庫川女子大学短期大学部非常勤講師（2016年3月まで）

2016年 4月 放送大学兵庫学習センター非常勤講師（現在に至る）

2018年 4月 関西学院大学文学部非常勤講師（現在に至る）

研究業績

著書・学術論文及び学会発表等	発行又は 発表年月	発行所及び 発表雑誌名等
(博士論文) 「中世日本漢字音における声調の研究」	2009 年 3 月	東京大学、計 299 頁
(著 書) 1. (共著) 弘前大学教育学部国語講座編『太宰へのまなざし——文学・語学・教育——』担当箇所:「太宰治作品におけるカタカナ語の表記についての一考察」	2013 年 3 月	弘前大学出版会、pp.183-207
2. (共著) 沖森卓也・肥爪周二編『シリーズ日本語ライブラリー・漢語』担当箇所:2 章および 5.5 節	2017 年 10 月	朝倉書店、pp.36-50,119-129
3. (共著) 神戸大学人文学研究科編『人文学を解き放つ』担当箇所:「日本漢字音の歴史と未来」	2023 年 3 月	神戸大学出版会、pp.69-74
4. (単著)『動的視点からの日本漢字音史研究』	2025 年 12 月 (予定)	勉誠社、計 464 頁(予定)
(論 文) 1. 「親鸞自筆『三帖和讃』から見た鎌倉時代漢語声調の一特徴——語構成に現れた非対称性——」	2005 年 3 月	『日本語学論集』1、東京大学国語研究室、pp.3-16(査読あり)
2. 「声点差声の一目的——親鸞自筆『観無量寿経註』『阿弥陀経註』の場合——」	2005 年 4 月	『国語と国文学』82-4、東京大学国語国文学会、pp.53-64(査読あり)
3. 「涅槃講式における漢語声調の変化についての考察」	2005 年 9 月	『訓点語と訓点資料』115、訓点語学会、pp.11-28(査読あり)
4. 「観智院本『世俗諺文』の漢字音(付・字音点分韻表)」	2006 年 3 月	『日本語学論集』2、東京大学国語研究室、pp.1-31(査読あり)
5. 「六地藏寺本『文鏡秘府論』の漢字音」	2007 年 3 月	『日本語学論集』3、東京大学国語研究室、pp.1-13(査読あり)
6. 「貞享版『補忘記』の漢語アクセント」	2008 年 3 月	『国語と国文学』85-3、東京大学国語国文学会、pp.69-80(査読あり)
7. 「論語古写本における漢字音について」	2008 年 3 月	『日本語学論集』4、東京大学国語研究室、pp.1-15(査読あり)
8. 「醍醐寺本『本朝文粹』の漢字音」	2009 年 3 月	『訓点語と訓点資料』122、訓点語学会、pp.31-42(査読あり)

9.「中世呉音字音直読資料における境界の消滅について」	2009 年 7 月	『日本語の研究』5-3、日本語学会、pp.51-63(査読あり)
10.「日本漢字音に関する諸問題」	2010 年 3 月	『弘前大学国語国文学』31、弘前大学国語国文学会、pp.1-13(依頼原稿)
11.「中世における『論語』古写本の声点について」	2011 年 3 月	『弘前大学教育学部紀要』105、弘前大学教育学部、pp.1-8
12.『『本朝文粹』における漢語声調について」	2011 年 3 月	『訓点語と訓点資料』126、訓点語学会、pp.18-33(査読あり)
13.「高山寺本『莊子』の漢字音」	2012 年 3 月	『弘前大学教育学部紀要』107、弘前大学教育学部、pp.7-14
14.「室町時代における漢字音の清濁——『論語』古写本を題材として——」	2012 年 10 月	『弘前大学教育学部紀要』108、弘前大学教育学部、pp.9-17
15.「「字音仮名遣い」の現状と提言」	2013 年 3 月	『弘前大学国語国文学』34、弘前大学国語国文学会、pp.15-30(査読あり)
16.『『遊仙窟』各本に記入された日本漢字音の位置づけ」	2013 年 7 月	『国語と国文学』90-7、東京大学国語国文学会、pp.52-65(査読あり)
17.「漢音声調における上声・去声間の声調変化——日本漢文の場合——」	2014 年 3 月	『国文論叢』48、神戸大学文学部国語国文学会、pp.1-12
18.「豪韻字の字音仮名遣いをめぐって」	2016 年 12 月	『鈴屋学会報』33、鈴屋学会、pp.15-30(査読あり)
19.「中世以降の「シウ(シユウ)」「シユ」の呉音形をめぐって」	2018 年 3 月	『国語語彙史の研究』37、国語語彙史研究会、pp.229-246(査読あり)
20.「「漢字音の一元化」の歴史」	2018 年 10 月	『国語と国文学』95-10、東京大学国語国文学会、pp.50-65(査読あり)
21.「浄土三部経音義の漢字音」	2021 年 3 月	『訓点語と訓点資料』146、訓点語学会、pp.48-60(査読あり)
22.「現代日本漢字音の一特徴——中国人名の表記を題材として——」	2021 年 11 月	『国文論叢』58、神戸大学文学部国語国文学会、pp.24-34
23.「日常使用の日本漢字音の歴史——『日葡辞書』と現代日用語辞典との比較を通して——」	2022 年 9 月	『国語と国文学』99-9、東京大学国語国文学会、pp.49-62(査読あり)

24.「後期中世における法華経音義の日本漢字音史資料としての性質——t入声字の表記を題材にして——」	2022 年 12 月	『国語国文』91-12、臨川書店、pp.29-40(依頼原稿)
25.「『和英語林集成』第三版の漢字音についての一考察」	2023 年 3 月	『神戸大学文学部紀要』50、神戸大学文学部、pp.27-48
26.「『和仏小辞典』の漢字音——『和英語林集成』第三版との比較を通して——」	2024 年 3 月	『神戸大学文学部紀要』51、神戸大学文学部、pp.1-20
27.「『四座講式』における漢字音の声調をめぐって」	2025 年 7 月	『国語と国文学』102-7、東京大学国語国文学会、pp.17-29(依頼原稿)
28.「漢字音の認定と字音仮名遣いをめぐって」(掲載予定)	2025 年 9 月	『訓点語と訓点資料』155、訓点語学会、掲載頁未定(査読あり)
(その他)		
1.「書評・高山知明著『日本語音韻史の動的諸相と蜷縮涼鼓集』」	2015 年 10 月	『日本語の研究』11-4、日本語学会、pp.51-58(依頼原稿)
2.「(平成 26 年国語国文学界の動向・国語学古典語)平成二十六年を振り返って」	2016 年 8 月	『文学・語学』216、全国大学国語国文学会、pp.81-84(依頼原稿)
3.「浄土三部経音義の字音点分韻表」	2018 年 3 月	『神戸大学文学部紀要』45、神戸大学文学部、pp.39-99
4.「書評・加藤大鶴著『漢語アクセント形成史論』」	2019 年 6 月	『国文学研究』188、早稲田大学国文学会、pp.80-82(依頼原稿)
5.「2018 年・2019 年における日本語学界の展望／音韻(史的研究)」	2020 年 8 月	『日本語の研究』16-2、日本語学会、pp.53-60(依頼原稿)
6.「観智院本『世俗諺文』鎌倉初期点字音点分韻表」	2022 年 3 月	『訓点語と訓点資料』148、訓点語学会、pp.1-49(査読あり)
7.山本真吾・石山裕慈・菊地恵太・ジスク マシュー、(文責)円満字二郎「座談会／古代・中世の日本の漢字についての研究——現状と展望——」	2024 年 12 月	『漢字之窗』6-2、日本漢字学会、pp.2-15
(国際学会発表)		
1.「現代日本漢字音の一特徴——中国人名の表記を題材として——」	2016 年 6 月 18 日	第1回北京外国語大学・神戸大学国際共同研究拠点シンポジウム(北京外国語大学北京日本学研究センター)
2. "Co-existence" of the two major Sino-Japanese systems(GO-ON and KAN-ON)	2017 年 11 月 19 日	International Workshop on Humanities "New Perspectives in Japanese Studies Part 2"(Kobe University Brussels European Center)

3.「漢字音の複層性をめぐって——日本漢字音の特質——」	2022 年 1 月 13 日	第2回全南大学大学院国語国文学 科 BK21 国際学術大会・地域語文 学×公共実践×コミュニティ(オンラ イン開催)
4.「日常使用の日本漢字音をめぐって」	2024 年 10 月 27 日	第9回北京外国語大学・神戸大学 国際共同研究拠点シンポジウム(北 京外国語大学北京日本学研究セン ター、「国際学術大会・日本的中国 学研究、中国的日本学研究」の分 科会として開催)